

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 041	提案機関名 農業技術センター 横浜川崎地区事務所
要望問題名 サクラ・ハナモモ鉢物の8月開花技術の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 川崎市宮前区は、大正時代から生産部会を設立し枝物を生産、出荷している、歴史と伝統のある産地である。生産される品物は品質が高く、平成26年度関東東海花の展覧会の枝物部門において、農林水産大臣賞を受賞しており、過去に何度も受賞している。 生産物は東京の市場でも高く評価され、海外へ輸出する話も出ている。その中で、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックの神奈川県会場に、川崎及び日本を代表するサクラ・ハナモモの鉢物を試合会場やプレスセンターに飾り、国内外の人々に川崎市の花をアピールし、輸出を含めた生産振興につなげたい。 生産者はサクラは敬翁桜系、ハナモモは照手シリーズを抑制開花技術の開発を希望している。 サクラの栽培面積は約2ha、ハナモモの栽培面積は約5ha。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ハナモモ「照手シリーズ」につきましては、気温データから自発休眠が覚醒する時期を推定する方法が確立されています(「植木生産の手引き」2002年、神奈川県植木生産組合連合会)。また、自発休眠が覚醒した後は、5℃程度の暗黒条件下においても萌芽が進み、さらに時間が経つと観賞性が著しく劣る花が4月以降に開花することが経験的に知られています。 8月に観賞性の高い開花を得るためには、革新的な技術開発が必要であるため、東京オリンピック前年の2019年までの確立は、試験用苗の育成等も含め、極めて困難であると考えます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			